

1. 医療費の負担を減らしたい

2. 治療を受けながら働きたい

■ 佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

白血病などの血液疾患治療のため、造血細胞移植を受ける患者さんの移植に関わる医療費など、入院に伴い直接必要となる費用の一部を助成しています。

【助成の対象】

- ①造血細胞移植を望みながら、経済的理由により実施が困難な患者さんとそのご家族
- ②日本国内に居住し、国内で造血細胞移植を受けようとしていること

■ 志村大輔基金

■ こうのとりのマーリン基金

■ 佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

【助成の条件】

世帯の収入が当基金の定める額を超えていない方。審査があります。

【問い合わせ先】

全国骨髓バンク推進連絡協議会 ☎03-5823-6360
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3F
FAX:03-5823-6365 <http://www.marow.or.jp/supports/>

■ 公益財団法人 HLA研究所「淳彦基金」

造血幹細胞移植が必要な患者さんで経済的に困難な事情のある方へ、HLA検査費用を援助しています。ただし「HLA研究所」での検査費用に限ります。申し込みは主治医から行う必要があります。

基金についてのお問い合わせ・申し込みは「淳彦基金を育てる会」事務局へ。

【問い合わせ先】

「淳彦基金を育てる会」事務局 ☎042-523-0571
〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-5-27 高田商事(株)内
FAX:042-524-3311
E-mail:pochit@mub.biglobe.ne.jp
HP:<http://hla.or.jp/med/atsuhiko/>



体験談

自分の病気を子どもに伝える

私には3人の子どもがいます。その子たちがそれぞれ6歳、4歳、1歳の時に悪性の脳腫瘍に侵されました。突然入院を強いられ、抗がん剤治療が始まり、2か月後に丸坊主の姿で退院しました。

幼稚園生の長女から「お母さんは何の病気だったの？」と聞かれました。私は、「頭の中のがんだよ」と答えました。幼稚園生には、がんという言葉がわからず、「それって何？」と聞いてきました。

私は、「風邪とかインフルエンザとかは、専用の薬を飲めばやっつけることができるけど、がんっていう病気は私たちの身体の中にある、いい細胞の1つがいきなり悪いヤツ、つまりがんが変わっちゃう病気なの。お母さんが使った薬は細胞、つまりがん細胞もいい細胞もやっつけてしまう薬だから、髪の毛が生える細胞もやっつけられて、抜けてしまったの」というと、「スパイみたいだね」と言いました。

ある日、幼稚園から帰ってくると、「お母さん、がんって死ぬの？」と聞いてきました。「ついに来たか！」と思いました。私は「どんな病気でも早く治療しなかったり、ひどくなったら死んじゃうこともあるのよ。がんも一緒だよ。だから、お母さんはがんで死なないように治療しているんだよ」と答えると、安心した表情になりました。

その子の年齢にあった説明と、時と場合によって説明の仕方を変えることも必要だなと感じました。

(30代 女性)

同じ病気の人のお話を聞いてみたい →P42

治療を受けながら働きたい →P78



がんになった親を持つ子どもへのサポート情報サイト
「ホープツリー」

<http://hope-tree.jp/>